

授業科目(ナンバリング)	認知症の理解Ⅱ (DA112)			担当教員	大町 いづみ (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。認知症に関する基礎的な知識を修得するとともに、認知症の人の生活、家族や社会との関りへの影響を理解し、その人の特性を踏まえた本人主体の認知症ケアの実践につながる内容とする。認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制、多職種連携・協働による基礎的な支援のための知識をグループワーク、ディスカッションを通して習得する学習とする。							①⑥⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	脳の機能や高齢者の心理についての理解を深めることができる。認知症に付随する身体症状や介護についての視点を身につけることができる。				筆記試験 授業態度・取組		50% 10%
情報収集、分析力	認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行うことができる。認知症や高齢者に関する医療や制度の理解を深めることができる。				授業態度・取組 授業内レポート		5% 10%
コミュニケーション力	認知症の病態を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解することができる。家族支援、インフォーマル等の地域資源を活かす視点を身につけることができる。				授業内レポート		10%
協働・課題解決力	認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援ができる。認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制、多職種連携・協働による基礎的な支援について理解できる。				授業態度・取組 授業内レポート		5% 10%
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
「定期試験」(50%)は筆記試験で行う。「授業内レポート」(30%)は、随時授業中に課した課題を評価する。「授業態度・取組み」(20%)は、授業中の態度、意見、取組み等を評価し、フィードバックし学生と共有し総合的に判断する。							
授業の概要							
医療現場、訪問看護での経験を持つ教員(認知症サポーターオレンジメイト)が担当し、現場実践を活かした学修を行う。認知症(若年性の認知症も含む)の人に対する対応や支援、その家族に対する支援について学ぶ。認知症が及ぼす生活への影響、生活上の障害への対応についてグループで具体的に考えていく。さらに、今日の認知症を取り巻く様々な状況や課題を把握し、認知症の人とその家族を支える地域社会のあり方等についても学んでいく。なお、授業においては、グループワークによる議論やプレゼンテーションを行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：新・介護福祉士養成講座12『認知症の理解』 中央法規 発行者：莊村明彦 参考書：特に指定しない 指定図書：介護福祉士国家試験 受験ワークブック2022 中央法規							
授業外における学修及び学生に期待すること							
専門職として認知症の人やその家族を支援することを常にイメージしながら授業に参加してほしい。認知症ケアの問題は、介護福祉士だけではなく、社会福祉士や精神保健福祉士にとっても最重要課題であると認識し、新聞やニュースで取り上げられる事柄に対して、常に興味を持つことを期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	認知症の症状・特徴の再確認	認知症の疾患による特徴や、認知症の症状等、前期に学習したことを確認していく。	予習：シラバスを読み、本教科の内容を理解する。 復習：生活障害をADLを中心に整理する。
2	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①	認知症の人の日常生活がスムーズに運ぶよう、認知症の人の特性を踏まえたアセスメントを学ぶ。家族や認知症の人の残存能力から、可能性も考えていく。	予習：BPSDの背景を考えてくる認知症の可能性について復習。
3	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア②	認知症の人の日常生活がスムーズに運ぶよう、人間関係、居住環境など環境変化が認知症に与える影響について学び、生活環境も考慮したアセスメントを考えていく。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：認知症の生活環境についてと、アセスメントを整理する。
4	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①	食事に関して認知症の人が困難なこと、また食事での生活障害とその支援を考えていく。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：食事へのケア、排泄での問題を整理。
5	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア②	排泄に関して認知症の人が困難なこと、また排泄での生活障害とその支援を考えていく。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：排泄ケア・入浴ケアについて整理する。
6	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③	入浴・睡眠に関して認知症の人が困難なこと、また入浴・睡眠での生活障害とその支援を考えていく。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：入浴・睡眠ケアについて整理する。
7	若年性認知症の理解①	若年性認知症の人と家族が直面している状況、若年性認知症の人が置かれているライフステージの特徴を理解し、高齢者とは異なる問題や障害について学ぶ。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：若年性認知症の問題や障害を整理する。
8	若年性認知症の理解②	若年性認知症の人とその家族に特徴的な心理や行動と、その支援（施策等も含む）について学ぶ。 (ゲストスピーカー・実務家)	予習：本テーマの教科書を読む。復習：若年性認知症の生活支援について。
9	家族への支援①	認知症の人を抱える家族の、認知症の受容の過程について学び、認知症の理解と、家族関係の大切さを理解する。 (ゲストスピーカー・実務家)	予習：本テーマの教科書を読む。復習：認知症の家族支援を整理する。
10	家族への支援②	認知症の家族の心理を理解し、受容の過程に合った援助を考える。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：家族への援助、レスパイトケアについて。
11	家族への支援③	家族の介護力の評価やレスパイトについて学び、地域のサポート体制の必要性を理解する。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：地域のサポート体制、近隣の状況。
12	連携と協働①	認知症に関する行政の方針や施策として、認知症高齢者支援対策の概要について学ぶ。 (ゲストスピーカー・実務家)	予習：本テーマの教科書を読む。復習：認知症高齢者支援対策について。
13	連携と協働②	地域包括支援センターの役割や機能を理解し、認知症高齢者とその家族への関わりや、小規模多機能型居宅介護やグループホームの役割や連携についても考える。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：認知症と地域の社会資源と、効果的活用の可能性を考える。
14	連携と協働③	認知症の人が地域で生活を続けていけるような、コミュニティづくり、町づくりを考える。同時に、それを支える地域住民の理解と支援について学ぶ。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：介護福祉士が果たす地域での役割についてまとめる。
15	まとめ	今後増加する認知症高齢者を始めとして、認知症の人の尊厳を守るケアについて考え、発表する。	予習：本テーマの教科書を読む。本テーマの予習。 復習：自身が抱える認知症ケアの課題を整理する。